

研究協力をお願い

昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

難治性逆流性食道炎に対し、逆流防止・内視鏡的粘膜切除術(ARMS)、内視鏡的粘膜焼灼術(ARMS)を施行した患者における高解像度マノメリー(HRM)の術前後での比較検討

1. 研究の対象および研究対象期間

研究対象：2018年4月1日から2023年12月31日までに昭和大学江東豊洲病院消化器センターにおいて逆流防止・内視鏡的粘膜切除術(ARMS)、内視鏡的粘膜焼灼術(ARMA)を施行した患者さん
研究対象期間：2018年4月から2023年12月まで

2. 研究目的・方法

逆流防止・内視鏡的粘膜切除術(ARMS)、内視鏡的粘膜焼灼術(ARMA)を施行される患者さんには、術前・術後の検査で上部消化管内視鏡検査、24時間多チャンネルインピーダンスpH検査、および高解像度マノメリーという検査を行なっています。高解像度マノメリーは食道の蠕動や食道胃接合部にある下部食道括約筋の機能を調べる検査です。

AMRSやARMAは、胃の入り口に人工的に潰瘍をつくり治癒過程で逆流防止弁を作ろうとする手術です。ARMSやARMAが食道胃接合部の下部食道括約筋機能へ与える影響や、逆流の減少による食道の蠕動へどのような影響があるかを調べることを目的としています。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究機関の長の研究実施許可を得てから、2024年12月31日まで。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2018年4月1日から2023年12月31日までに昭和大学江東豊洲病院消化器センターにおいて内視鏡的創部閉鎖法としてloop10法が行われた患者さんの診療録の中から、年齢、性別、病期期間、内服薬の内容、手術時間、術中有害事象の有無、術後の合併症の有無、術前および術後に施行されるHRMの結果、またHRMと同時に施行される上部消化管内視鏡検査所見、24時間多チャンネルインピーダンスpHモニタリング検査所見を調査項目とします。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連

絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学江東豊洲病院消化器センター

氏名：井上 晴洋

住所：〒135-8577 東京都江東区豊洲5丁目1-38 電話番号：03-6204-6000

研究責任者：井上 晴洋（昭和大学江東豊洲病院消化器センター）